

	一般名	概要
198	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌に対するoxaliplatin/fluorouracil/leucovorin併用療法において60日以内の死亡例が報告されている。また、グレード3以上の好中球減少症と血小板減少症の発現率は70歳以上でわずかに高かった。
199	ポルフィマーナトリウム	食道癌放射線化学療法後の局所遺残再発例34症例に対し、本剤投与後に光線力学療法を施行したところ、主な合併症として穿孔4例、食道狭窄17例、光過敏症2例が認められ、穿孔を認めた4例のうち、1例が縦隔炎、大動脈穿孔で死亡したことが報告された。
200	エポエチンβ(遺伝子組換え)	1985年1月1日から2005年4月30日までの公表論文等の中から癌患者に対するエポエチン及びダルベポエチン治療に関する57試験を体系的にレビューしたところ、エポエチンまたは、ダルベポエチンによる治療は血栓塞栓症のリスクを高めることが示唆された。
201	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	複雑性腹腔内感染症に対するピペラシリン/タゾバクタム投与患者に190例中2例で薬剤関連の重篤な有害事象(致命的な敗血症:1例、嘔吐、腎及び寛機能異常:1例)が認められた。
202	塩酸アザセトロン	塩酸アザセトロンの遅延性嘔気・嘔吐に対する有効性を評価するため、塩酸オンダンセトロンを対照薬とした非劣性試験を行ったが、非劣性は示し得なかった。
203	硫酸ビンクリスチン	非ホジキンリンパ腫患者1219名に対するCHOP療法(シクロホスファミド/ドキシルビシン/ビンクリスチン/プレドニゾロン)群では二次発癌発生の相対リスク(RR=1.6)の上昇が認められた。主に白血病、肺、結腸直腸癌で高かった。
204	キシナホ酸サルメテロール	長時間作動型β2刺激薬の使用は、重篤な喘息の憎悪、喘息関連死を起こす可能性がある。
205	カルバマゼピン	カルバマゼピンの遺伝毒性について、健康な人のリンパ球を用いて試験を行ったところ、遺伝毒性が示唆された。
206	塩酸キナプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
207	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌においてFOLFOXIRI(fluorouracil/folinic acid(LV)/oxaliplatin/irinotecan)群とFOLFIRI(fluorouracil/folinic acid(LV)/irinotecan)群を比較したランダムイズphase III studyにおいて各群2例ずつ、計4例で下痢を伴う発熱性好中球減少症による死亡が報告された。
208	非ピリン系感冒剤(3)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
209	オキサプロジン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
210	ホリナートカルシウム	EGFR発現型転移性結腸直腸癌に対するセレコキシブとFOLFIRI(irinotecan+folinic acid+fluorouracil)の併用治療で3例の化学療法関連死が認められた。
211	非ピリン系感冒剤(3)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
212	塩酸ミトキサントロン	60歳以上の進行性非ホジキンリンパ腫に対するCHOP(シクロホスファミド+ドキシルビシン+ビンクリスチン+プレドニゾロン)および、PMtiCEBO(ミトキサントロン+シクロホスファミド+エトポシド+ビンクリスチン+プレオマイシン+プレドニゾロン)にG-CSF併用・非併用を組み合わせた4群での比較試験において、全群で感染症や心臓関連の死亡例が認められた。
213	塩酸テモカプリル	経口避妊薬とボセンタンの併用で、ノルエチステロンとエチニルエストラジオールのAUCが減少した。
214	デキサメタゾン	多発性骨髄腫の患者にレナリドミドと高用量デキサメタゾンを併用すると、血栓症の発症リスクが高まることが示唆された。
215	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	経口避妊薬とボセンタンの併用で、ノルエチステロンとエチニルエストラジオールのAUCが減少した。
216	メトトレキサート	薬剤性肺炎67症例のうち、8例が死亡に至ったが、その死亡例8例の原因薬剤は、ゲフィチニブ3例、メトトレキサート3例、漢方と抗癌剤が1例ずつであったことが報告された。
217	ジダノシン	スペインの大規模HIV外来2施設におけるレトロスペクティブ調査の結果、抗レトロウィルス療法を受けたHIV陽性患者3200例のうち、17例で特発性肝疾患が認められ、特に、長期ジダノシン曝露との関連が示唆された。

	一般名	概要
218	塩酸アザセトロン	セロトーンの前延性嘔気・嘔吐に対する有効性を評価するため、ゾフランを対照薬とした非劣性試験を行ったが、非劣性は示し得なかった。
219	非ピリン系感冒剤(2)	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
220	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	高齢の再発性急性骨髄性白血病患者に対するゲムツズマブオゾガマイシン、シトシンアラビノシド、G-CSF併用治療において、完全寛解中に1例が膀胱癌再発、1例が虚血性脳卒中で死亡した。なお、最も頻度の高い有害事象は骨髄抑制であったことが報告された。
221	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	高齢の急性骨髄性白血病患者に対するゲムツズマブオゾガマイシン、フルダラビン、シタラビン、イダルビシン併用療法にゲムツズマブオゾガマイシン単独療法を強化療法として追加した試験において、2例が血小板数が $20 \times 10^9/L$ 以上であったが中枢神経系出血により死亡したことが報告された。
222	マレイン酸フルボキサミン	母親が妊娠中にSSRIを服用していた新生児で、出産時低体重、早産児出産、胎児死亡、痙攣のリスクが高まることが示唆された。
223	マレイン酸フルボキサミン	母親が妊娠中にSSRIを服用していた新生児で、出産時低体重、早産児出産、胎児死亡、痙攣のリスクが高まることが示唆された。
224	マレイン酸エナラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
225	塩酸アミトリプチリン	メタドンの偶発的過量投与による死亡例をレトロスペクティブに解析すると、三環系抗うつ薬、ベンゾジアゼピン系薬またはその両方の併用例が高かった。
226	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	60歳以下の新規診断急性骨髄性白血病患者に対する高用量シタラビン、ゲムツズマブオゾガマイシンのDose Dense療法において1例が播種性アスペルギルス感染により投与30日以内に死亡したことが報告された。
227	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	未治療の高齢急性骨髄性白血病患者に対するダウノルビシン、シタラビン、ゲムツズマブオゾガマイシン併用試験において、4例(敗血症、頭蓋内出血、穿孔性虫垂、末梢血中芽球)の死亡が報告された。
228	トランドラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
229	カプトプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
230	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	Linitis Plastica型胃癌患者19例にテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムを投与したところ、グレード3以上の好中球減少4例、発熱性好中球減少1例、貧血1例が認められた。
231	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
232	塩酸イリノテカン	結腸直腸癌の肝転移切除例において、術前化学療法なし群に比較して、フルオロウラシル+イリノテカン群で脂肪性肝炎の発現率が有意に高く(P=0.0001)、フルオロウラシル+オキサリプラチン群は肝類洞拡張の発現率が有意に高かった(P=0.00001)。
233	メトトレキサート	成人バーキットリンパ腫または急性リンパ芽球性白血病に対するHyper-CVAD療法(シクロホスファミド+ビンクリスチン+ドキソビリン+テキサメタゾン)+リツキシマブ+メトトレキサート+シタラビンによる化学療法で高齢患者1例の多臓器不全を伴うサイトメガロウイルス肺炎による死亡が認められた。
234	トランドラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
235	シラザプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
236	キシナホ酸サルメテロール	慢性閉塞性肺疾患をもつ患者に β 2刺激薬を使用すると、呼吸器起因性の死亡率が高まることが示唆された。
237	プレドニゾン	急性胸部症候群の患者にコルチコステロイドの治療を行うと、治療後の再入院の危険が高まることが示唆された。

	一般名	概要
238	ジソピラミド	不整脈の治療にリン酸ジソピラミドを使うと、洞リズムの調整に効果はあるが、クラス1A薬(リン酸ジソピラミド、キニジン硫酸塩)は死亡率を高める可能性がある。
239	アセトアミノフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇する。
240	エポエチン α (遺伝子組換え)	1985年1月1日から2005年4月30日までの公表論文等の中から癌患者に対するエポエチン及びダルベポエチン治療に関する57試験を体系的にレビューしたところ、エポエチンまたは、ダルベポエチンによる治療は血栓塞栓症のリスクを高めることが示唆された。
241	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	先天性好中球減少症患者においてG-CSF投与により、骨髄異形成症候群および、急性骨髄性白血病の危険率が長期間をかけて有意に増加した(P<0.001)ことが報告された。
242	ブスルファン	急性および慢性骨髄性白血病患者に対する経口ブスルファンとフルダラビンベースの治療法を用いて同種幹細胞移植前処置を行ったところ、因果関係が否定できない死亡例が報告された。
243	塩酸イリノテカン	結腸直腸癌の肝転移切除例において、術前化学療法なし群に比較して、フルオロウラシル+イリノテカン群で脂肪性肝炎の発現率が有意に高く(P=0.0001)、フルオロウラシル+オキサリプラチン群は類洞拡張の発現率が有意に高かった(P=0.00001)。
244	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌に対するFOLFIRI-3(irinotecanをfluorouracil/leucovorin療法の前後に分けて投与する治療法)により、グレード4の粘膜炎2例、下痢1例、無力症3例、好中球減少11例、発熱性好中球減少3例、貧血が2例認められた。また、1コース目終了後に、好中球減少と下痢を伴った敗血性ショックによる毒性死亡が1例みとめられた。
245	塩酸デラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
246	イトラコナゾール	イトラコナゾールの前処置やCYP2D6*10遺伝子多型がハロペリドールの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
247	塩酸ピオグリタゾン	チアゾリジン系薬剤による治療を受けた糖尿病患者のレトロスペクティブ症例集積調査の結果、チアゾリジン系薬剤と黄斑浮腫の関連性が示唆された。
248	エストリオール	閉経後の女性に結合型エストロゲンを単独投与すると、虚血性脳卒中発症のリスクが高まった。
249	イブプロフェン	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(22回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
250	アセトアミノフェン含有一般用医薬品	NSAIDまたはアセトアミノフェンを多量服用(15錠/週)、あるいは頻回服用(23回以上/月)すると、重大な心血管イベント(非致死性心筋梗塞、致死性冠動脈性心疾患、非致死性・致死性脳卒中)発症のリスクが上昇することが示唆された。
251	ミツロウ	正中胸骨切開術後の18例中17例にミツロウ肉芽腫が認められ、ミツロウは吸収されず、慢性炎症を引き起こすことが示唆された。
252	マレイン酸エナラプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
253	レフルノミド	レフルノミドが選択的整形外科手術後の創傷治癒合併症リスクを上昇させることが示唆された。
254	トレチノイン	急性骨髄性白血病に対するAIDA療法により、16例中6例の死亡が認められた。
255	アラセプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
256	エストラジオール	エストロゲン単独使用での乳癌発症のリスクは、長期使用者においてのみ上昇することが示された。
257	高カロリー輸液用総合ビタミン剤(6)	健康な妊婦において、ビタミンCおよびE摂取で子癇前症、胎児異常、胎児死亡、出生時低体重、妊娠性高血圧はプラセボ群と有意差が認められなかったが、高血圧のために出産前に降圧剤を使用するリスクの上昇がみられた。

	一般名	概要
258	リシノプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
259	エキセメスタン	ステロイド性アロマトラーゼ阻害薬(エキセメスタン)も非ステロイド性アロマトラーゼ阻害薬(アナストゾール、レトロゾール)も骨代謝に影響を与えることが示唆された。
260	塩酸イミダプリル	妊娠第1三半期にACE阻害薬を服用すると、先天性奇形のリスクが高くなることが示唆された。
261	塩酸フェキソフェナジン	イトラコナゾールとの併用により、P-糖タンパクとによる初回通過効果を減少させることでフェキソフェナジンのCmax、AUCを増加させた。
262	肺炎球菌ワクチン	プロスペクティブ多施設二重盲検無作為化プラセボ比較試験において、23価肺炎球菌ワクチンは中高年患者に対して、肺炎一般もしくは肺炎球菌性肺炎の予防効果がないことが示唆された。
263	イブプロフェン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
264	リシノプリル	黒人や東アジア人でACE阻害薬の使用による血管浮腫、咳喘の発現リスクが高かった。
265	インドメタシン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
266	ホリナートカルシウム	転移性結腸直腸癌に対するIFL療法(irinotecan, fluorouracil bolus, leucovorin)において1例の治療関連死が認められ、17%に好中球減少症および下痢を含むグレード3-4の毒性が認められ、その後のFOLFOX療法では27%にグレード3-4の毒性が認められた。
267	ホリナートカルシウム	進行・再発結腸直腸癌に対するcelecoxib/irinotecan/fluorouracil/leucovorin併用療法において心臓又は血管の毒性が25%に認められた。
268	リン酸クリンダマイシン	一病院においてリン酸クリンダマイシンの使用量と抗菌剤関連性腸炎を疑うC. difficile検出数の間に有意な正の相関が認められた。
269	ホウ酸	妊娠初期にホウ酸の臍錠投与を行うと、新生児の先天異常のリスクが上昇した。
270	エストリオール	子宮を摘出した女性に対するエストロゲン単独のホルモン補充療法は、静脈血栓症の発現リスクを高める。
271	レノグラスチム(遺伝子組換え)	G-CSF投与により、好中球が活性化され、血小板好中球複合体の形成により、血栓が形成される可能性がある。
272	レノグラスチム(遺伝子組換え)	先天性好中球減少症患者においてG-CSF投与により、骨髄異形成症候群および、急性骨髄性白血病の危険率が長期間をかけて有意に増加した(P<0.001)。
273	レノグラスチム(遺伝子組換え)	ステージI, IIの女性乳癌に対してアジュバントEC療法(エピルビシン、シクロホスファミド)を施行した患者に対するG-CSF投与により貧血が悪化する可能性がある。
274	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	遠隔転移を有する進行性膵癌患者におけるゲムシタピン+テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウムの併用第II相臨床試験33例において、グレード3の間質性肺炎による治療中止例2例が認められた。
275	メトレキサート	バーキットリンパ腫患者に対するメトレキサート+エトポシドの治療により、治療関連合併症(2例)と病勢進行(1例)での死亡が報告された。
276	塩酸ミトキサントロン	新規急性骨髄性白血病に対するMEC(ミトキサントロン+エトポシド+シタラビン)療法で寛解導入中に3名がコントロール不能の感染で死亡したことが報告された。
277	メトレキサート	中枢神経原発リンパ腫に対する大量メトレキサート、大量ブスルファン/チオテパ処理による自家幹細胞移植、全脳放射線照射による治療で、3例の治療関連死が報告された。
278	塩酸ミトキサントロン	再発および難治性の成人白血病患者に対するシタラビン+ミトキサントロン+Flavopiridol投与により、死亡例3例(真菌血症、呼吸困難、多臓器不全)が報告された。

	一般名	概要
279	塩酸ミキサントロン	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するミキサントロンを含む治療を受けた患者において、2例の死亡例が報告された(肺炎1例、JCウィルス感染による白質脳症1例)。
280	塩酸ミキサントロン	ホジキンリンパ腫の再発患者に対するミキサントロンを含む治療において、5例の死亡が報告された。
281	エストラジオール	BMI \leq 24.9kg/m ² でホルモン療法を受けていない女性は、BMI \geq 30kg/m ² の女性に比べ乳がんの発症リスクが高まるが、ホルモン療法を受けている女性は、BMIに関わらず乳がん発症リスクは高いことが示唆された。
282	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
283	フェノバルビタールナトリウム	抗てんかん薬を長期(12年以上)使用した女性で骨折リスクの増加が示唆された。
284	硫酸サルブタモール	早産治療を目的とした妊婦へのサルブタモール静脈内投与は虚血性心疾患の発症を高めることが示唆された。
285	メトレキサート	鼻NKT細胞性リンパ腫に対するm-BACOD(メトレキサート、ブレオマイシン、ドキソルビシン、シクロホスファミド、ビンクリスチン、デキサメタゾン)化学療法と放射線療法において、1例の治療関連死が報告された。
286	フィナステリド	不定期かつ短期間のフィステナリドや α ブロッカーの使用は、前立腺癌になるリスクを高める。
287	硫酸サルブタモール	早産治療を目的とした妊婦へのサルブタモール静脈内投与は虚血性心疾患の発症を高めることが示唆された。
288	キシナホ酸サルメテロール	4歳未満の喘息患者へのセレベント投与では、プラセボ群と比較して有効性に有意さが見られなかった。
289	ホリナートカルシウム	EGFR発現型転移性結腸直腸癌に対するセレコキシブとFOLFIRI(irinotecan+folinic acid+fluorouracil)の併用治療で3例の化学療法関連死が認められた。
290	ホリナートカルシウム	結腸直腸癌に対するoxaliplatin/fluorouracil/leucovorin併用療法において60日以内の死亡例が報告されている。また、グレード3以上の好中球減少症と血小板減少症の発現率は70歳以上でわずかに高かった。
291	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
292	イブプロフェン・アセトアミノフェン含有一般用医薬品	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
293	エストロゲン〔結合型〕	エストロゲン単独使用での乳がん発症のリスクは、長期使用者においてのみ上昇することが示された。
294	イトラコナゾール	イトラコナゾールとリファンピシンはヒトでのエバスチンとその代謝物(カレバスチン)の薬物動態および、抗ヒスタミン作用を有意に変化させたが、CYP2J2*8遺伝子多型はCYP3A4にほとんど影響を与えないことが示唆された。
295	臭化水素酸デキストロメトर्फアン	HIV感染患者では、ロピナビルとリナビルの併用がデキストロメトर्फアンのCYP2D6による代謝を阻害することが示唆された。
296	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は急性膵炎発症リスクを高める可能性がある。
297	フィルグラスチム(遺伝子組換え)	高濃度エビルピシン+シクロホスファミド投与を受けている女性乳がん患者における貧血の悪化にG-CSFの用量依存的な作用が関与している可能性が示唆された。
298	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
299	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は急性膵炎発症リスクを高める可能性がある。
300	人血清アルブミン	市販のアルブミン製剤は加熱処理で生じたアスパルティルアラニル・ジケトピペラジンによりin vitroにおいて、免疫抑制作用を示すことが示唆された。
301	アスコルビン	子癇前症のリスクが高い妊婦2410人に抗酸化剤(ビタミンC,E)を投与したところ、子癇前症の発症率に大きな影響はなかったが、治療群で低体重児の生まれる確立が高いことが示唆された。

	一般名	概要
302	アセトアミノフェン	H2受容体拮抗薬とアセトアミノフェンの併用により、アセトアミノフェンの血漿中濃度が上昇することが示唆された。
303	イオジキサノール	冠血管形成術後の血栓症関連の有害事象発症率は、イオキサグレートよりもイオジキサノールの方が高かった。
304	マレイン酸フルボキサミン	高齢者(66歳以上)のSSRIの使用は治療開始1ヶ月間での自殺既遂の危険性を高めることが示唆された。
305	マレイン酸フルボキサミン	高齢者(66歳以上)のSSRIの使用は治療開始1ヶ月間での自殺既遂の危険性を高めることが示唆された。
306	メトトレキサート	中枢神経原発リンパ腫患者に対するMATILDE療法(高用量メトトレキサート、チオテパ、イダルビシン、ビンクリスチン)において、41例中4例に毒性による死亡が報告された。
307	イトラコナゾール	健康人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
308	メトトレキサート	メトトレキサート投与の小児非ホジキンリンパ腫患者においてMTHFRの変異型と予後、治療関連毒性の間に関連性は認められなかった。また、治療関連死として13例が報告された。
309	イトラコナゾール	イトラコナゾールの前処置やCYP2D6*10遺伝子多型がハロペリドールの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
310	エストラジオール	悪性度の高い子宮内膜間質性肉腫の患者10例の内、5例がエストロゲン補充療法使用者であった。
311	エストラジオール	エストロゲン単独使用でのコメド癌発症のリスクが上昇した。
312	グリベンクラミド	妊娠中の糖尿病患者を対象としたレトロスペクティブ調査において、先天異常、巨大児、新生児低血糖、新生児呼吸困難が認められた。
313	塩酸ゲムシタピン	非小細胞肺癌(NSCLC)細胞の抗癌剤処理によるアポトーシスは、ニコチンによって抑制されることが示唆された。
314	フロセミド	うっ血性心不全の患者にフロセミドを投与した場合の急性腎不全発症リスク因子は、年齢、腎機能基準値、心室収縮不全、血清ナトリウム値、平均血圧、利尿剤投与量などである。
315	スピロノラクトン	重篤な高カリウム血症のため緊急透析を要した10例の内、8例がACE/ARBを使用し、うち3例はスピロノラクトンを併用していた。
316	ニトログリセリン	ラットにおいて、金属成分を含む添付薬を使用したまま実験用MRI装置で検査を行うと、添付薬の剥離部で100度の温度上昇がみられた。
317	イブプロフェン・アセトアミノフェン含有一般用医薬品	アセトアミノフェンと5-HT3受容体拮抗剤の併用で、アセトアミノフェンの鎮痛作用が阻害されることが示唆された。
318	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
319	タゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム	院内肺炎に対するピペラシリン/タゾバクタム(P/T)とイメネム/シラスタチン(I/C)の比較試験において、P/T群に薬剤との関連性が否定できない死亡例2例が報告された。
320	塩酸フェキシフェナジン	健康人を対象とした試験において、リナビル単独、もしくはロピナビル・リナビルの前投与により、フェキシフェナジンのCmaxおよびAUCが有意に増加することが示唆された。
321	サキナビル	HIV関連感覚性ニューロパシーの発現とジデオキシヌクレオシドやプロテアーゼ阻害剤の曝露に関連性が認められた。
322	メシル酸サキナビル	HIV関連感覚性ニューロパシーの発現とジデオキシヌクレオシドやプロテアーゼ阻害剤の曝露に関連性が認められた。
323	塩酸グラニセトロン	カイトリル注とアスポキシシリン製剤、塩酸ニムスチン、塩酸アムルピシンとの配合により、混濁が認められ、カイトリルの力価低下が見られた。
324	ムロモナブ-CD3	腎移植患者において、モノクローナル抗体やリンフォグロブリン、horse antithymocyte globulin投与群で非ホジキンリンパ腫発現のリスクが高いことが示唆された。

	一般名	概要
325	トコフェロール含有一般用医薬品	子癩前症のリスクの高い女性へのビタミンC、ビタミンEの投与により、低体重出生児の割合が増加した。
326	ポルフィマーナトリウム	腹膜癌腫および肉腫患者に対するポルフィマーナトリウムと光線力学療法を使用した治療により、2例の死亡が報告された。
327	アトルバスタチンカルシウム	アトルバスタチンによる筋障害の既往のある患者群で、本剤代謝物のアトルバスタチンラクトン、o-およびp-ヒドロキシアトルバスタチンのAUC、Cmaxが有意に高かった。
328	ナプロキセン	緩解期の炎症性腸症候群(クローン病、潰瘍性大腸炎)の患者への非選択的NSAIDも投与すると、統計的に有意な再発が見られた。
329	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は多発性筋炎を含むミオパシーの発現に関与している可能性が高かった。
330	ホリナートカルシウム	進行結腸直腸癌に対するFOLFIRI-3(irinotecanをfluorouracil/leucovorin療法の前後に分けて投与する治療法)により、グレード4の粘膜炎2例、下痢1例、無力症3例、好中球減少11例、発熱性好中球減少3例、貧血が2例認められた。また、1コース目終了後に、好中球減少と下痢を伴った敗血症性ショックによる毒性死亡が1例みとめられた。
331	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
332	エキセメスタン	骨転移による併用療法を受けている閉経後乳癌患者に対するエキセメスタン投与により、骨代謝マーカーの有意な変化が認められた。
333	エキセメスタン	転移性乳癌患者に対するエキセメスタン投与により、骨吸収および骨代謝マーカーが共に有意な増加が認められた。
334	エストラジオール	BMI \leq 24.9kg/m ² でホルモン療法を受けていない女性は、BMI \geq 30kg/m ² の女性に比べ乳管癌の発症リスクが高まるが、ホルモン療法を受けている女性は、BMIに関わらず乳癌発症リスクは高かった。
335	オメプラゾール	プロトンポンプ阻害剤は多発性筋炎を含むミオパシーの発現に関与している可能性が高い。
336	ヘパリンナトリウム	ラット胚を用いたin vitro試験において、ヘパリンおよび低分子ヘパリンが胚に対し、遺伝毒性を示す可能性が示唆された。
337	アルファカルシドール	副甲状腺機能低下症患者において、医原性高カルシウム血症による急性腎不全の発生頻度が高い可能性が示唆された。
338	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン20mg/dayを1年以上投与された患者で子宮肉腫が発現する可能性が高いことが示唆された。
339	クエン酸タモキシフェン	タモキシフェン20mg/dayを1年以上投与された患者で子宮肉腫が発現する可能性が高いことが示唆された。
340	メシル酸イマチニブ	10名の慢性骨髄性白血病患者に対するメシル酸イマチニブ投与で全例に左心室機能不全が報告された。さらに、マウス・心筋細胞を用いた非臨床試験でメシル酸イマチニブが小胞体やミトコンドリアの機能不全により心筋細胞死を誘導することが示唆された。
341	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素(UGT1A1)の遺伝子多型がイリノテカンの薬物動態や安全性に関与することが示唆された。 UGT1A1*6/*6; 活性代謝物(SN-38)のAUC有意に高く、グレード4の好中球減少症に関連することが示唆された。 UGT1A9-118(T)9/9、UGT1A7*3/*3; 活性代謝物(SN-38)のAUC有意に高く、グレード3の下痢に関連することが示唆された。
342	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌ワクチン接種群と非接種群を比較したコホート試験において、肺炎による死亡のリスクは有意に減少したが、肺炎のための入院、肺炎全体のリスクに有意な減少はみられなかった。
343	イトラコナゾール	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
344	エボエチン α (遺伝子組換え)	エリスロポエチン製剤は未熟児網膜症の増悪因子の一つである可能性が示唆された。
345	アセトアミノフェン	小児の急性肝不全患者348例のうち、48例でアセトアミノフェン投与が原因とされ、うち2例が死亡した。

	一般名	概要
346	塩酸イリノテカン	グルクロン酸転移酵素(UGT1A1)の遺伝子多型がイリノテカンの薬物動態や安全性に関与することが示唆された。 UGT1A1*6/*6;活性代謝物(SN-38)のAUC有意に高く、グレード4の好中球減少症に関連することが示唆された。 UGT1A9-118(T)9/9、UGT1A7*3/*3;活性代謝物(SN-38)のAUC有意に高く、グレード3の下痢に関連することが示唆された。
347	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
348	エストラジオール	悪性度の高い子宮内膜間質性肉腫の患者10例の内、5例がエストロゲン補充療法使用者であった。
349	ヨード化ケン油脂脂肪酸エチルエステル	肝動脈塞栓術が施行された63例において、肝膿腫2件、壊疽性胆嚢炎1件の合併症が認められた。
350	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクは他のNSAIDsと比べ、胃粘膜障害、潰瘍発生率が高いことが示唆された。
351	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
352	エストラジオール	エストロゲン単独使用でのコメド癌発症のリスクが上昇した。
353	インドメタシン	極低出生体重児で消化管穿孔をきたした6例を調べたところ、全例がインドメタシン使用例であり、うち3例が死亡した。
354	デキサメタゾン	母親が妊娠32週以内でグルココルチコイドによる治療を受けたとき、生後1ヶ月以内の乳児で血圧上昇、心筋壁の肥厚がみとめられた。
355	ワルファリンカリウム	心房細動を有する患者を対象としたレトロスペクティブコホート調査において、特に男性におけるワルファリンの長期投与が骨粗鬆症による骨折に関連する可能性がある。
356	デキサメタゾン	多発性骨髄腫の導入療法としたデキサメタゾン単独療法により11人が死亡し、うち4人は治療と関連する感染症、呼吸不全、卒中発作、消化管出血による死亡だった。
357	フルコナゾール	健康男性被験者を対象としたオープン無作為交差試験において、フルコナゾールおよびボリコナゾール投与後のイブプロフェン投与により、CYP2C9の阻害によると考えられるS(+)-イブプロフェンのAUCの増加、Cmaxの上昇、T1/2の延長が認められた。
358	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤やジクロフェナクナトリウムの14日以内の投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
359	テガフル・ウラシル	結腸・直腸癌を対象としたフルオウラシル/ホリナートカルシウム群とテガフル・ウラシル/ホリナートカルシウム群の比較試験において、後群でグレード4の肝機能障害が1例認められた。
360	ジゴキシシン	ウルソデオキシコール酸とジゴキシシンの併用で、ジゴキシシンの血中濃度の低下が見られた。
361	ケトプロフェン	ケトプロフェンの投与により、急性膵炎の発症リスクが高まることが示唆された。
362	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	進行食道癌患者を対象としたテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム/シスプラチン併用放射線療法の臨床試験において、1例がgrade4の好中球減少から敗血症に至り死亡したことが報告された。
363	オキサリプラチン	オキサリプラチンを含む治療法を受けた消化器癌患者90例を対象としたレトロスペクティブ調査において、グルタチオンS-トランスフェラーゼ(GST)遺伝子多型と累積末梢神経障害発現リスクに関連性が認められた。
364	テガフル	直腸癌患者に対する術前化学療法としてテガフル坐剤投与により、グレード4の白血球減少、食思不振(食欲不振)各1例が認められた。また、術後合併症として感染症17例、縫合不全7例が認められた。
365	リネゾリド	海外で実施されたグラム陽性菌によるカテーテル性血流感染症に対する非盲検無作為化臨床試験において、対象群(9.9%)と比較してリネゾリド群(15.2%)の死亡率が高かった。
366	フルコナゾール	健康男性被験者を対象としたオープン無作為交差試験において、フルコナゾールおよびボリコナゾール投与後のイブプロフェン投与により、CYP2C9の阻害によると考えられるS(+)-イブプロフェンのAUCの増加、Cmaxの上昇、T1/2の延長が認められた。
367	エポエチンβ(遺伝子組換え)	28週未満の児に対するレーザーあるいは凍結凝固法による手術例においてエリスロポエチン製剤の使用により、未熟児網膜症の手術率が増加することが示唆された。

	一般名	概要
368	エポエチンβ(遺伝子組換え)	在胎28週未満の児に対するエリスロポエチン製剤投与は投与の早期中止により手術率、反復手術率が低下することが示唆された。
369	シクロスポリン	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、フラノクマリン系薬剤であるメキサレンがシクロスポリンの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
370	ホスアンブレナビルカルシウム水和物	ホスアンブレナビルカルシウム水和物の長期がん原性試験(104週)において、雄マウスで肝細胞腺腫および肝細胞癌の増加がみられた。また、雌雄ラットでは肝細胞腺腫および甲状腺濾胞細胞腺腫の増加がみられた。
371	イブプロフェン	選択的COX-II阻害剤は血管イベント(心筋梗塞、卒中、血管死)の発症リスク上昇に関与し、高用量のイブプロフェン、ジクロフェナク投与も血管イベント発症リスクを高めることが示唆された。
372	リファンピシン	健常人を対象とした無作為化交差試験において、リファンピシンの前投与によりCYP1A2が誘導され、チザニジンの薬物動態に影響を与えることが示唆された。
373	スピロラクトン	スピロラクトン投与患者において、上部胃腸出血や胃十二指腸潰瘍のリスク上昇が示された。
374	アスピリン	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
375	トフィソパム	白人の健康な男性16人においてCYP3A4活性に対するトフィソパムの影響をアルプラゾラム併用下で試験したところ、アルプラゾラムのAUC、t1/2が有意に上昇した。
376	インドメタシン	母体へのインドメタシン投与により、早期新生児死亡のリスクが高まることが示唆された。
377	ワルファリンカリウム	ワルファリンカリウムの長期服用患者では骨粗鬆症リスクが高いことが示唆された。
378	プラバスタチンナトリウム	スタチン系薬剤の使用によって、リンパ球性悪性腫瘍のリスクを高めることが示唆された。
379	インドメタシン	インドメタシンの母体投与は、早期新生児肺血症の発症リスクを高めることが示唆された。
380	塩酸ラニチジン	乳幼児において、胃食道逆流性疾患の治療に胃酸分泌抑制剤を使用すると、急性胃腸炎や市中肺炎の感染リスクが高まることが示唆された。
381	塩酸ラニチジン	超低出生体重の乳児において、H2ブロッカーの投与は壊死性腸炎の発生率を高める。
382	ジクロフェナクナトリウム	選択的COX-II阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
383	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクは他のNSAIDsと比べ、胃粘膜障害、潰瘍発生率が高く、NSAIDs長期使用患者かつH.pylory感染例では潰瘍の発生率を高めることが示唆された。
384	イソニアジド	ウサギを用いた試験の結果、にんにく粗抽出物を14日間経口投与後にイソニアジドを投与すると、イソニアジドのCmaxやAUCが有意に低下することが示唆された。
385	マレイン酸フルボキサミン	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
386	マレイン酸フルボキサミン	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
387	リドカイン	血液透析患者のうち、リドカインテープ剤を長時間使用した患者で皮膚障害の発生頻度が高まった。
388	シスプラチン	17歳以下の小児がん患者1511人を対象とした3年以上の追跡調査で2次がんの発生が認められた26人について、薬剤の使用状況等をレトロスペクティブに調査した結果が報告された。
389	ゾピクロン	慢性不眠症患者に対してゾピクロンを投与したところ、プラセボと比較して有効性が見られなかった。
390	アセトアミノフェン	アセトアミノフェンの過量投与が原因である急性肝不全患者50例中、26例が死亡、あるいは肝臓移植を受けていた。
391	塩酸パロキセチン水和物	冠動脈バイパス術後のうつが危険因子とされることから、術前にSSRIを服用した患者の予後を調査したところ、術後の長期予後における死亡、再入院のリスクが高まった。
392	塩酸パロキセチン水和物	SSRIを投与された妊婦において、新生児が呼吸窮迫、低体重となる頻度の高いことが示唆された。

	一般名	概要
393	塩酸パロキセチン水和物	抗うつ剤を使用中の重症うつ病患者のうち、6～18歳で自殺既遂のリスクが増加した。
394	イトラコナゾール	イトラコナゾールの事前投与後にクロピドグレル投与した際の血小板凝集抑制作用はCYP3A5 遺伝子多型により変化することが示唆された。
395	イブプロフェン	選択的COX-II 阻害剤と同じく、NSAIDも心筋梗塞の発症リスクを高めることが示唆された。
396	ウロキナーゼ	急性虚血性脳卒中患者に対するウロキナーゼ動脈投与において、脳内出血のリスクが増大することが示唆された。
397	イトラコナゾール	健常人を対象とした無作為化クロスオーバー試験において、イトラコナゾール、gemfibrozil及びこれらの併用により血漿中ロペラミド濃度が有意に上昇することが示唆された。
398	ジクロフェナクナトリウム	ジクロフェナクの投与により、急性心筋梗塞の発症リスクが高まることが示唆された。
399	シロドシン	ウサギにおいて、 α 1アドレナリン遮断薬の作用により、IFIS関連の瞳孔に対して収縮作用が強くなった。
400	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	海外での訴訟に関する報告(当該製品は国内で流通していない)。
401	乾燥濃縮人血液凝固第8因子	血漿由来凝固因子製剤にヒトパルボウイルスB19 遺伝型2が検出され、NAT (nucleic acid amplification testing) による同時検出が可能であることが報告された。
402	コウジ酸	コウジ酸がマウス肝で腫瘍イニシエーション活性を有していない可能性が示唆された。
403	グルコン酸クロルヘキシジン含有薬用歯磨き類	本剤によると思われる呼吸苦、動悸、全身の倦怠感等ショックをきたした1例が報告された。
404	染毛剤	本剤によると思われるアナフィラキシー性ショック、急性循環不全、心筋梗塞後症候群をきたした1例が報告された。
405	ビタミンB群含有製品	本剤によると思われる嘔吐をきたした1例が報告された。